

「山王中学校生徒指導通信」～「志」が宿り、「いかに生きるか」を考えるために～

『命の山王』

No. 14 [2018年 7月11日(水)]

忘れえぬ青春の1ページ その2

全国大会でソロをミスしてしまった私に、演奏後一番早く声を掛けてくれたのが、前号の裏面のコラムを書いた、作曲家の天野正道さんでした。(天野さんは、私の中学・高校の先輩で、学生当時からよく私に話し掛けてくれました。彼はその前年から現在まで、毎年秋田南高校吹奏楽部の自由曲の編曲を続けています。)天野さんは青ざめている私に対して「木内、大丈夫だよ。全体の演奏がいいから、心配するな!」と励ましてくれたのでした。そして金賞もいただき、1つの苦い思い出として終わっただけだと、その時は思っていました。ところが、そうではなかったのです。

20年ほどして、日本で指折りの吹奏楽部である、千葉県柏高校吹奏楽部顧問の石田先生とお話した時のことです。石田先生が「木内先生の出身高校は?」と聞かれたので、「秋田南高校です。」「自由曲は?」「春の祭典です。」「楽器は?」「ホルンです」と言ったとたん、石田先生は「あなたでしたか!あのソロは!私は秋田南高校の演奏が正しくて、世界中のオーケストラが間違っているのだと、ずっと信じていました。でも、先日楽譜を初めて見て、南高校が間違ったことに気付いたんです。いやいやあなただと!私は南高校の演奏は生でも聴いたし、レコードもすりきれほど聴いたんですよ!」

この後、同じ事を日本全国の先生方から何度も何度も言われました。そしていつの間にか「木内と言えば、春の祭典のホルンソロ」と言われるようになってしまいました。

さらにそれだけではありませんでした。私と天野さんの共通の恩師で、秋田南高校吹奏楽部を日本最高レベルに引き上げてくださった、高橋絃一先生がわずか64歳で亡くなった時に、追悼コンサートが行われました。その時に、天野さんは絃一先生の思い出を綴った「オマージュ」という曲を新たに作曲しました。その中に絃一先生が演奏されたコンクール自由曲を少しずつつなぎ合わせた部分がありました。そして私の代の自由曲「春の祭典」の中から取り上げられたのは…。もはやお分かりと思いますが、私のソロの部分でした。しかも、私がミスしたとおりの楽譜で書かれていました。

その追悼コンサートはたくさんの思いのつまった、心温まるものになりましたが、「オマージュ」のソロを吹いた時は(当然私が吹きました。もちろん私が間違えたように。)関係者、特にOB&OGを中心に、かなりの注目を集めていたようです。

元々ミスをしてしまった私が悪いわけで、もしソロを間違えずに吹いたら、おそらく誰も気にもしないことだったと思うのです。しかし、そのおかげで、私は数多くの吹奏楽指導者や吹奏楽ファンに知られることになりました。また、40年も経っているのに、まだ話題にしてくれる人がいることも事実です。忘れられないのは、声を掛けてくださった天野さんはもちろん、当時の仲間たちは誰一人として、私のことを責め立てる人はいなかったことです。私の青春の1ページであり、決して忘れることのできない、貴重な思い出です。

〔生徒指導主事：木内記〕

「若人山王精神」物語その7

一足早く開催された県中総体のゴルフ競技で、3年1組の田口昇馬君が、2位に入賞しました。今週末の各競技の大会にとって、幸先の良いスタートとなりました。

各部とも、今までやってきたことを信じて、田口君に続いて自分たちの実力を出し、全県に「山王魂」を見せつけてきてほしいです。

県中総体が始まります!

週末から県中総体が始まります。各部の健闘を心から祈ります。また、応援は秋田市開催が少ないこともあり、サッカー部の応援を部活単位で行うことになりました。気温の高い日が続くと思われれます。それぞれ、熱中症対策をよろしく願います。